

今回の紛擾事件の原因と見るべきは之を四つに分けて考へることが出来るが要するに公正なる精神を没却し不純なる動機に出ることが取次である。

(1) 疑心暗鬼を生ず

大正十五年八月鑛夫組合の支部が設置され組合員も相當多數に達したので何かの機会を見てストライキをやつて見たいといふ氣心があつたところへ會社で組合の幹部を敵首とするといふ疑心暗鬼から山代問題を生じた。此の爭議が起つたもの之が最も主要な原因と認められる。

(2) 小野田坑飯場頭山代吉宗の解職

これは此の爭議の直接の原因と見られて居るが會社としては同人の解雇斷行を通じては彼の社會的に見て穩かでない言動及會社に對する不誠實極まる度々の行爲について幾度も忠告を與へ反省を促した結果同人も立派に前非を改めることを誓ひ自署した誓書を會社に納めたに拘らずその誓書を全然裏切る行動を繰返して止まないで萬止むを得ず遂に解雇したもので特に相當の手當金も支給したなど出來得るだけの情理を盡したことは一般の等しく首肯して居る所である。

(3) 鑛夫組合磐城支部幹部の野心

昨年八月鑛夫組合磐城支部設置されたがその前後幹部は加盟者募集の手段として加盟後は必ず賃金値上げ、時間短縮手當増額等を実現してやると誰でも飛びつきさうな誘惑を試みたので一部の人が加盟するに至つたがこれらの豫約は幾月を経るも履行されず全く不渡りに終らんとしたので幹部に對する不信任の聲漸く喧しくなつてきたため幹部はこゝで何とかせねば支部は瓦解の慘を見る運命に陥るので袖手前線を待つよりはといふ考に萬一を僥倖したいといふ思惑も手傳つて今回の舉に出でたものであると思はれる。

(4) 傍系の一因

猶別に傍系的一因とも見るべきは鑛夫組合磐城支部は豫て組合本部の幹部が支部を喰ひ物にする傾向がある故磐城炭礦支部はせめて本部の制肘を受けたい様に獨立しやうといふ様な考から自然組合本部と意思疏通を缺くに至り折柄管で政治研究會當時より提携を續け來つた山代鐵首の問題が起り見殺しも出來ず自分の配下の地盤を提供して起つたことを見るべき節もある。

一、經過

組合側では東京本部及各地方友誼團體の應援の下に愈罷業を斷行するに決し先づ左記要求書を一月二十六日會社に提出したが皮相淺薄何處を検討するも労働者の聲は反映されて居ないのであつた。

要求書内容

- 一、山代、佐々木、栗谷三氏の復職
- 二、賃銀値上げ
- 三、労働時間ノ短縮
- 四、勤続手當並ニ退職手當ノ制定
- 五、飯場制度並ニ組長制度ノ徹底的改善
- 六、鶴燒賣、安全燈料會社負担
- 七、坑内外作業設備ノ完全
- 八、白米ノ改善
- 九、衛生設備ノ完全
- 十、長屋ノ改善
- 十一、全従業員及び其家族ノ醫藥無料
- 十二、隣者ノ不親切ナル行爲ノ改善
- 十三、豫後備召集ノ場合ハ其當時ノ勤キ賃銀ノ半額支給スル事及旅費ノ支給
- 十四、簡閱點呼ノ際日給金額及旅費ヲ負担スル事
- 十五、爭議ニ絶對ニ犠牲者ヲ出ササル事

以上

- 第六 鶴燒賣安全燈料ノ會社負担
- 第七 全従業員及其家族ノ醫藥無料
- 第八 豫後備召集ノ場合ハ其當時ノ移賃金ノ給
- 第十四 簡閱點呼ノ場合日給及旅費ノ支給

右に就ては日本全國の炭礦は全最も非況の底底

さしても現今の經濟狀態ニ到底出來ない。

第四 勤続手當並ニ退職手當ノ制定

第十 長屋ノ改善

右の二つは豫て鑛炭會より之を同一要求が出し居

して居ないから鑛炭會に回答する迄保留したい

第七 坑内外作業設備ノ改善

第八 白米ノ改善

第九 衛生設備ノ改善

第十 隣者ノ不親切ナル行爲ノ改善

此の四つは會社に從來も充分研究して誠意を以つ

當つて居ることであり此後は尙一層調査研究の

折る。

第十五 爭議ノ犠牲者ヲ出ササル事

之も要求に應ずるわけに行かない

右で回答済になつた譯であるが終りに御參考ま

社の意のある所を申上げるとそれは今後會社は尙

許す範圍に於て一般従業員諸君の福利の増進に努

める。

後いろ／＼の應對があつたが其特記すべきこ

超えて一月三十日信賴すべき調停者が現れたが然

表面的であつた當時其の調停者から

「組合側では今回の紛擾は第一名分を欠き殆ん

だとする觀があるが此際無條件調停して貰ひ

出である只今回の紛擾事件に就て敵首者を出さ

貰ひ度いといふことであるから會社側でも何ん

いたものである。」

といふ話があつた會社では慎重熟議の結果調停者

思ひ御大難前でもあり涙をのんで一任したのである

に至らなかつた。

一月三十一日再び先の調停者より話が有りその條件

爭議の犠牲者は出す事、但家族に對し相當の見舞金

二、要求條件には絶對に觸れないもし觸れる様なこ

場合は一月二十八日の回答通りである、三、金一封

の三項で話がついて二月一日面會する事になつた。

二月一日調停者立會の下に會社従業員三名と組合側

高梨兩氏を加へた五名と會見した所組合幹部は意外

の要求條件の改訂を提案しその理由として誰にも過

に過ちを改むるに憚る勿れださまで曲言した。

試みに改訂した條件を記すれば

第一の山代、佐々木、栗谷三氏の復職の件は「山代

佐々木、栗谷三氏の復職

第五の飯場制度並に組長制度の徹底的改善は飯場

を改め

新条件として

一、食料配給所の配給方法を嚴正にすること

二、山代吉宗の手當金を足尾銅山の例により支給

但普通の労働者に備入ること

の二つをつけ加へてを

會社側では要求條件は此の場合最も重要なもので十

究を重ねた結果決定し提出されたものに相違ない會

亦十分慎重審議を遂げて回答したものであるから今

の改訂には應ぜられぬと拒絶した。

それでも彼等は猶執拗に要求條件に觸れて來たが飽

を希望する會社側は或る程度まで話を進めて來たけ

は之に應ぜず遂には威嚇的言辭を弄してまで其の要求

としたので遂にこの日の會議は決裂に終つた。